

# 環<sup>わ</sup>の道<sup>みち</sup>



## CONTENTS

### ●トピックス

- 3R推進北海道大会2008.....2
- 世界自然遺産「知床」の保全状況に対する評価.....3

### ●特集

- 「エコ・ギャラリー」ご来場ありがとうございました...4.5
- ビジターセンター等施設紹介.....6.7

### ●エッセイ

- G8洞爺湖サミットの評価とCOP15への課題.....8

### ●レンジャーノート

- 美しい水をたたえる支笏湖の魅力.....9
- オンネトー湖の瀧の外來生物.....9

### ●事業紹介

- 猛禽類保護の現場から.....10

### ●自然公園関係功労者環境大臣表彰.....11

### ●イベント情報.....11

### ●北のいきもの事典.....12

### ●人事異動.....12

第12号  
2008.10



環境省

北海道地方環境事務所

## 3R推進北海道大会2008を開催します

北海道地方環境事務所では、循環型社会の形成に向けた取組として、3R推進北海道大会2008を開催してごみ問題に関する情報を発信し、「3R」推進に関する理解を深め、参加者個々のライフスタイルを見つめ直す機会を提供します。本年は札幌市、帯広市、旭川市の3会場で行います。

＜同大会に関するホームページアドレス＞  
[http://hokkaido.env.go.jp/to\\_2008/0908a.html](http://hokkaido.env.go.jp/to_2008/0908a.html)

### 3R 推進基調 講演会



北海道大学大学院 教授  
吉田 文和

(札幌会場10:45～11:45)

環境経済学、産業技術論、循環型社会の経済学的分析を専門。

経済と環境と技術の関係において、理論的研究と実証的研究を行う。

北海道環境審議会会長・北海道経済産業局容器包装排出抑制会議座長・札幌市廃棄物減量等推進審議会会長等を歴任。

主な著書：『循環型社会』（中央公論新社）単著



### 環境・リサイクル セミナー (各会場)

レジ袋削減の取り組みの先進事例発表や、3R推進の取り組みについてパネルディスカッションを行います。

今回は、同じテーマで札幌・帯広・旭川と3会場で開催します。開催地により報告者・パネラーが違い、それぞれ地元の実践報告や課題、今後の方向性についても議論します。

地域の特色を十分に活かし、市民・事業者・行政が一緒に取り組む3Rを目指します。

### 講演会及び環境・リサイクルセミナーの申込先

NPO法人 環境り・ふれんず  
 〒060-0004  
 札幌市中央区北4条西15丁目1-14コアレックスビル1階  
 電話・FAX:011-618-0530  
 E-MAIL:refriends@r7.dion.ne.jp  
 ※講演会・セミナーは定員になり次第、申し込みを締め切らせていただきます。

## 世界自然遺産「知床」の保全状況に対する評価

平成17年7月の第29回世界遺産委員会において、「知床」が世界自然遺産に登録された際に、「海域管理計画の策定状況や遺産地域の海洋資源の保全の効果、その他の報告事項への取組状況などを評価するための調査団を招くこと。」という決議がなされ、これに基づいた調査団として、ユネスコ世界遺産センター次長のキシヨール・ラオ氏とIUCN保護地域事業部長のシェパ



▲現地調査の様子(2008年2月)

ード氏が平成20年2月19日から22日にかけて、知床世界自然遺産地域を訪れました(詳しくは環の道第10号「世界自然遺産「知床」への調査団の来訪」をご覧ください)。

調査の結果は報告書としてまとめられ、調査団により日本政府に送られました。報告書では、地域の行政機関や漁業者などと連携しつつボトムアップで議論が行われてきたことや、科学委員会の助言を受けて科学的に検討を行い対応してきたことを高く評価していただいたと共に、いくつかの課題も指摘されました。

そして、それを踏まえた決議が平成20年7月、ケベック市(カナダ)にて開催された第32回世界遺産委員会にて採択されました。

決議では、世界遺産一覧表記載時の報告に日本が効果的に対応していることや地域の参画と科学的知見の活用に基づく管理がなされていることを称



▲第32回世界遺産委員会の様子(2008年8月)

賛するとともに、統合的な管理計画を作成すること、ロシアとの情報交換などの協力を続けること、シカによる植生への食圧を測る指標を開発すること、気候変動への適応策を検討することなどの対応を日本に求めています。

高い評価を受けたものの、多くの指摘・助言を受け、平成24年2月1日までに決議で指摘された事項に関する報告を世界遺産センターに提出することも決議で求められました。世界遺産一覧表に記載されている限り、世界遺産の価値を次世代へと引き継いでいくために、世界トップレベルの管理をしていくことが常に求められるということです。

今後は、知床世界自然遺産候補地管理計画を見直し、知床世界自然遺産地域管理計画を策定する作業を進めるとともに、世界遺産委員会よりなされた決議を

踏まえてどのような管理をしていくかについて地元関係者や科学委員会とよく協議をして、世界自然遺産「知床」の適正な管理を進めていくことが重要です。

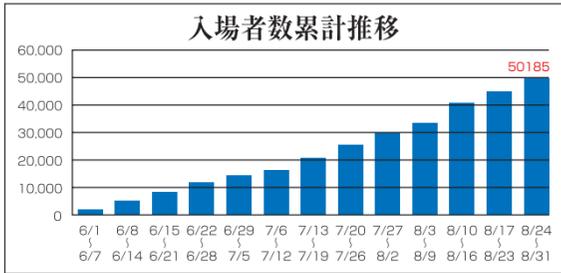


◀第32回世界遺産委員会会場のコンベンションセンター(カナダケベック市)

# 特集

## エコ・ギャラリー ご来場ありがとうございました

本誌6月号でご紹介しました、仮設の大型環境学習展示施設「エコ・ギャラリー」が8月31日をもって閉館しました。北海道洞爺湖サミット開催前後の3ヶ月間にわたり開設していたのですが、最終日には5万人目の来場者を迎え、期間中の入場者数合計は50,185人となりました。エコ・ギャラリーの展示や自然体験プログラムをはじめと



する関連イベントには国内のみならず海外からの来訪者等、多くのご来場をいただきました。ご来場の皆様からは、「国立公園をはじめとする日本の美しい自然を改めて認識した」、「世界の環境問題を身近に考えるようになった」、「環境問題を親子で話し合う機会となった」など、多くのご好評をいただきました。3ヶ月間のエコ・ギャラリー開催を通じ、環境保全に関する意識高揚に寄与できたものと考えています。

北海道地方環境事務所では、エコ・ギャラリーの展示物を、今後も、地元洞爺湖町が開設を予定しているサミット記念館(仮称)や全国の環境イベントで引き続き活用していくことにしています。



5万人目となった、伊達市の及川緑さん、和愛さん親子

# PHOTO ALBUM

6月1日から8月31日までの開館期間中に、常設展示のほか、特別企画展示や自然体験イベントを多数開催しました。その中から主なものを選んで写真で振り返ります。

開館式典	常設展示
特別企画展示	自然体験イベント



環境副大臣、地元自治体関係者、ミス・ネイチャーも参列したオープニング記念式典。(6月1日)

### オープニング記念式典



地球温暖化の進行により、存続が危ぶまれない雪合戦。地元農協の雪蔵で保存された本物の雪を使用しました。(6月1日)

### オープニング記念「雪合戦」



3ヶ月の開催期間中、地元の洞爺湖や北海道内各地はもとより、日本国内各地、そして海外からも多くの方に来場いただきました。

### エコ・ギャラリーの展示概観



すべての展示物は再生ダンボールを使用して製作。最終的には資源としてリサイクルされます。閉館後、展示は別の施設にて利用予定です。

### 再生段ボールで作られた展示



日本の在来種であるニホンザリガニを駆逐する恐れがあるとして、洞爺湖でも問題になっているウチダザリガニを中心に、外来種が生態系に及ぼす影響を詳しく解説しました。

### 外来種と生態系



日本人が1日に排出する二酸化炭素の量6kgを立体的に表現した展示。6kgの二酸化炭素がバランスボール38個に相当することに、驚く入場者も多く見られました。

### 二酸化炭素と地球温暖化



暮らしの中の小さなアクションを積み重ねることにより、CO<sub>2</sub>の排出削減の努力を誓う「1人1日1kgCO<sub>2</sub>削減宣言」。8,210人の来場者が同宣言をしました。

### 1人1日1kgCO<sub>2</sub>削減宣言



仮設テントは閉館後に解体され、他のイベントに使用されます。また、テントの幕材にはケナフが使用されており、最終的には紙に生まれ変わります。

### テントもエコ



立体のペーパークラフトの本を組み立てながら、環境について学ぶ「えごぼん」を館内で配布。多くの子どもたちがスタッフと一緒に工作を楽しみました。

### えごぼん作り



美唄自然エネルギー研究会のご協力により雪冷房システムを展示しました。サミット期間中には、雪冷熱で開花抑制していた桜の花が彩りを添えました。

### 雪冷房システム「風雪君3」



日本自然科学写真協会の協力により、日本を代表する国立公園の壮大な景観や、穏やかな里山の風景、動植物を写真60点により紹介しました。(6月1日～6月12日)

### 企画展「美しい日本の自然」



円山動物園との共催により、北海道の希少野生動物の絵画、彫刻展を行いました。(6月14日～6月17日)

### 企画展「動物の形態を愉しむ展」



期間中、北海道の各国立公園で活躍する自然保護官(レンジャー)が、それぞれの現場での仕事について紹介しました。(8月12日～8月21日)

### 自然保護官業務紹介



景観の優れた場所として環境省が選定した「洞爺湖八景」を自転車で巡る写真撮影会。(7月12日)

### 洞爺湖八景フォトサイクリング



洞爺湖における外来生物であるウチダザリガニの問題を広く知っていただく駆除体験イベントを開催。(7月20日)

### ウチダザリガニ駆除体験



野生のエゾシカの生態を観察することにより、自然と動物の関わり合いを考える中島探索ツアー。(8月3日)

### 中島探索・エゾシカ観察会



豊かな自然に触れ、環境について家族で考えるきっかけをキャンプを通じて提供しました。(8月9日～8月10日)

### 洞爺湖自然体験キャンプ



自然保護官補佐(アクティブレンジャー)による、動物折り紙の講習会。ユニークな折り紙作品が多く作られました。(8月16日)

### 動物折り紙講習会



水辺で遊ぶことの楽しさを知ると共に、カヌーや水辺での安全な遊び方について正しい知識を身につけるイベント。(8月17日)

### 洞爺湖カヌー体験



カヌー体験の一環として、生き物探しを通じて洞爺湖の豊かな自然に触れるきっかけを提供。(8月17日)

### 水辺の生き物探し



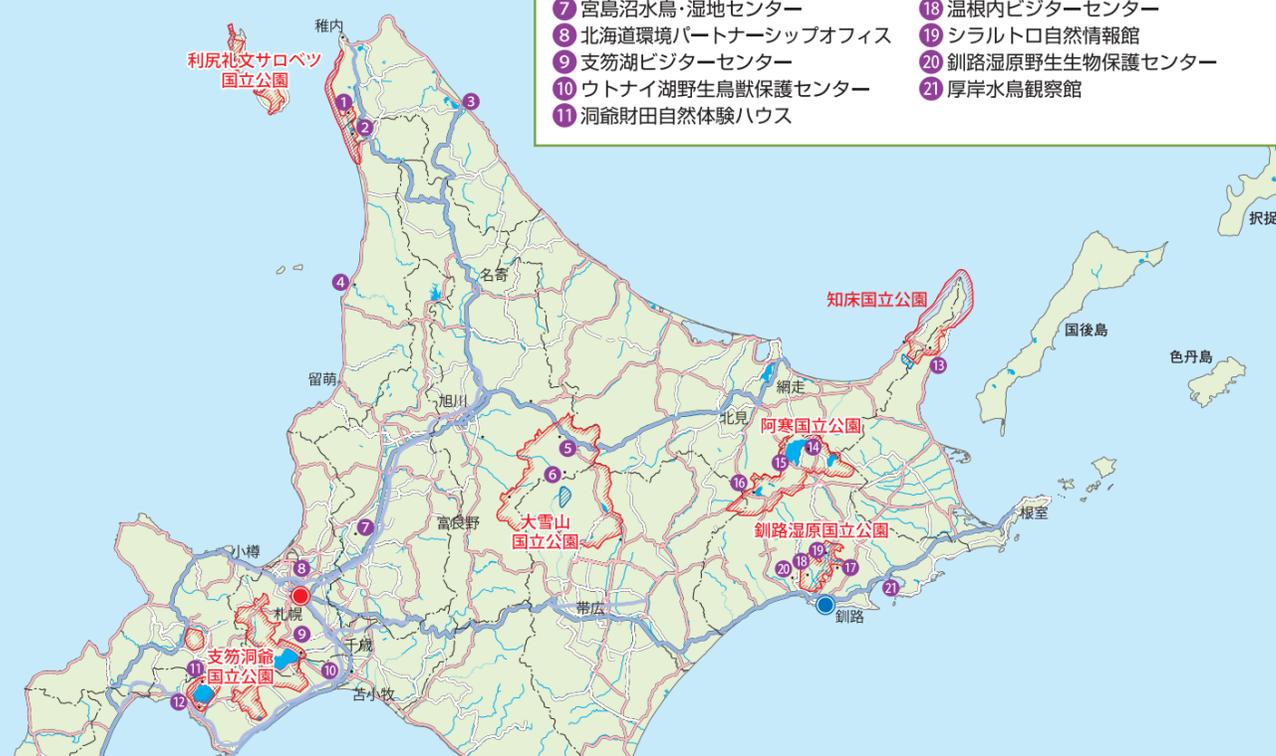
火山がもたらす変化は必ずしも悪い影響ばかりではなく、畑作に適した地質といった、火山の恵みについても考察。(8月24日)

### 西山火口観察ウォーク

# ビジターセンター等 施設紹介

- 凡 例
- 北海道地方環境事務所
  - 釧路自然環境事務所
  - 環境省関係施設
  - 国立公園

- ### 環境省関係施設
- 1 サロベツ原生花園自然教室
  - 2 幌延ビジターセンター
  - 3 浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館
  - 4 北海道海鳥センター
  - 5 層雲峡ビジターセンター
  - 6 ヒグマ情報センター
  - 7 宮島沼水鳥・湿地センター
  - 8 北海道環境パートナーシップオフィス
  - 9 支笏湖ビジターセンター
  - 10 ウトナイ湖野生鳥獣保護センター
  - 11 洞爺財田自然体験ハウス
  - 12 洞爺湖ビジターセンター・火山科学館
  - 13 羅臼ビジターセンター
  - 14 川湯エコミュージアムセンター
  - 15 和琴自然教室
  - 16 阿寒湖畔エコミュージアムセンター
  - 17 塘路湖エコミュージアムセンター
  - 18 温根内ビジターセンター
  - 19 シラルトロ自然情報館
  - 20 釧路湿原野生生物保護センター
  - 21 厚岸水鳥観察館



### 2 幌延ビジターセンター

当ビジターセンターからハンク沼へと続く約3kmの木道沿いでは、アカエリカイツブリが沼地で子育てする様子や、ヤマドリゼンマイが見事な湿原など変化に富む美しい自然を楽しむことができます。また、ビジターセンターの展望スペースからは原野を広く見渡すことができます。心ゆくまでサロベツの景色をお楽しみください。

● 幌延町字下沼  
● 休館日/11月～翌年4月  
● TEL:01632-5-2077

### 3 浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館

クッチャロ湖に訪れる水鳥を望遠鏡で観察したり、展示やビデオなどで水鳥やクッチャロ湖の自然について知ることができます。これからの季節は、渡りの途中のコハクチョウやカモ類が多数訪れます。クラフトコーナーや図書スペースも充実していますので、ゆっくりとお楽しみください。

● 浜頓別町クッチャロ湖畔  
● 休館日/月曜日、祝日の翌日、年末年始  
● TEL:01634-2-2534  
● FAX:01634-2-2534

### 4 北海道海鳥センター

住宅地の中にあるので、子ども達がたくさん集まるユニークな施設です。ジュニアレンジャーという小学生ボランティアが活躍していて、館内の展示解説やケガをした鳥の世話も行っていきます。スタッフの手作りによる展示物はハンズ・オンを取り入れ、海鳥や道北の自然について多くの人に興味を持ってもらえるよう工夫しています。

● 羽幌町北6条1丁目  
● 休館日/月曜日、祝日の翌日、年末年始  
● TEL:0164-69-2080  
● FAX:0164-69-2090

### 5 層雲峡ビジターセンター

大雪山国立公園は日本最大の山岳国立公園であり、温泉街地区に位置する層雲峡ビジターセンターは大雪山登山の重要な拠点として利用されています。観察会や山麓山岳情報の発信など、大雪山の自然、生態系保護のしくみを訪れた方々に深く理解していただき、国立公園の適切な利用につながるよう取り組んでいます。

● 上川町層雲峡  
● 休館日/6月～10月無休  
● 期間/6月～10月中旬  
● 11月～5月毎週月曜日(祝祭日の場合は翌日)・年末年始(12/31～1/5)  
● TEL:01658-9-4400  
● FAX:01658-9-4401  
<http://sounkyouvc.town.kamikawa.hokkaido.jp/>

### 6 ヒグマ情報センター

日本の国立公園では唯一登山コースの出入口が1か所の施設にあり、入山開始は7:00から13:00まで、下山は15:00までにセンターに戻ってくるという、管理システムを取っている情報センターです。この地域はヒグマの生息密度が濃く登山者との遭遇を避けるためレクチャーを受けることが義務づけられているのも大きな特徴です。

● 上川町層雲峡(高原温泉)  
● 休館日/なし  
● 期間/6月初旬から10月中旬

### 8 北海道環境パートナーシップオフィス

地域の環境保全から地球温暖化まで、単独では解決困難な現在の環境問題に対して、パートナーシップを創り出すことで解決を促していくことを目的に、環境省が設置した活動拠点です。様々な立場が関わる「対話」を生むことで相互理解を深め、それを基に環境保全の取組を「実践」し、成果や事例などを情報として「発信」しています。

● 札幌市北区北7条西5丁目5番札幌千代田ビル3F  
● 休館日/土日、祝日、年末年始  
● TEL:011-707-7060  
● FAX:011-707-7061  
<http://www.epohok.jp>

### 10 ウトナイ湖野生鳥獣保護センター

四季を通じてウトナイ湖周辺に生息する野生鳥獣に関するビジターセンターの機能し、野鳥の生態系や渡り鳥などの営みについて、わかりやすく解説している施設です。また、鳥獣保護区周辺における傷病鳥獣の収容やリハビリ等も行っています。

● 苫小牧市植苗156-26  
● 休館日/毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)、年末年始(12/31～1/5)  
● TEL:0144-58-2231  
● FAX:0144-51-8600  
<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/kankyo-seikatu/utonaikohp>

### 12 洞爺湖ビジターセンター

有珠山山麓という場所柄、自然に関するお問い合わせもさることながら、火山に関する質問が非常に多いのが当施設の特徴です。洞爺湖ビジターセンターと併設する火山科学館の施設をうまく活用し、来館者の方々に満足いただける案内・解説を心がけています。森と湖と火山の自然の営みと、人と火山の共生する様子をぜひご覧ください。

● 洞爺湖町宇洞爺温泉142番地5 佐々木伸  
● 休館日/毎年1月1日及び12月31日  
● TEL:0142-75-2555  
● FAX:0142-75-2555  
<http://www.toyako-vc.jp/>

### 14 川湯エコミュージアムセンター

川湯エコミュージアムセンターは、来訪者へのインフォメーションにとどまらず、身近にある自然や歴史・文化を地元の方と一緒に学ぶ活動を行っています。野外活動等を通じて地元の魅力を伝えるため、特に町内の小中学校へは要望に応じた細やかな活動プログラムを作成し、出前授業や自然体験活動等を積極的にを行っています。

● 弟子屈町川湯温泉2-2-6  
● 休館日/水曜日(11月～4月)  
● TEL:015-483-4100  
● FAX:015-483-4111  
[http://www6.marimo.or.jp/k\\_emc/](http://www6.marimo.or.jp/k_emc/)

### 16 阿寒湖畔エコミュージアムセンター

阿寒国立公園阿寒・オンネトー地域の自然について解説している施設です。展示の特徴としては量100枚分の航空写真の上に解説板などがある展示室と、水槽展示です。当センターでは阿寒を訪れる利用者にも、多様な利用を適正にさせていただくためのツアーやふれあい活動行事を多数実施しています。ぜひご利用下さい。

● 阿寒町阿寒湖温泉1-1-1 小川彰太  
● 休館日/水曜日(11月～4月)  
● 7月下旬～8月下旬は無休・年末年始  
● TEL:0154-67-4100  
● FAX:0154-67-2568  
<http://business4.plala.or.jp/akan-eco/>

### 18 温根内ビジターセンター

当ビジターセンターは、釧路湿原の自然観察の最前線といえます。釧路市街から比較的近距離にあることや湿原内を歩ける木道が完備していることもあって、一年をとおして小・中学校などの野外学習や実習、文化施設のイベントなどでの利用も少なくありません。何度でも足を運びリピーターが多いのが、魅力ある自然の証といえるでしょう。

● 釧路市温根内  
● 休館日/毎週火曜日、12月29日～1月3日  
● TEL:0154-65-2323  
● FAX:0154-65-2185  
[http://city.hokkai.or.jp/kr946/shisetsu\\_onnenai.html](http://city.hokkai.or.jp/kr946/shisetsu_onnenai.html)

### 20 釧路湿原野生生物保護センター

建物は展示施設と研究施設に分かれおり、展示施設では北海道東部の野生生物や湿地の保護などについて紹介しています。研究施設では、野生生物の保護、増殖に関する事業を行っています。収容されているシマフクロウの様子は、展示室からモニターで見学できます。

● 釧路市北斗2-2101  
● 休館日/4月下旬～10月31日:無休  
● 11月1日～4月下旬:毎週土日  
● 祝日・年末年始  
● TEL:0154-56-2345 ● FAX:0154-56-2267  
[http://city.hokkai.or.jp/kr946/shisetsu\\_yaseiseibutu.html](http://city.hokkai.or.jp/kr946/shisetsu_yaseiseibutu.html)

### 7 宮島沼水鳥・湿地センター

宮島沼水鳥・湿地センターは、四季折々の宮島沼の自然に関する情報や、地域の自然や農業とのふれあいの場を提供するネイチャーセンターです。マガンの大乱舞を見学したい、ふらっと立ち寄ってのんびりしたい、自然ガイドを受けたい、学校の授業をしてほしい等々、さまざまなご要望にお応えします。

● 美瑛市美瑛町大曲3区  
● 休館日/月曜日  
● 休館日/祝日の場合、次の平日  
● TEL:0126-66-5066  
● FAX:0126-66-5067  
<http://www.city.bibai.hokkaido.jp/miyajimanuma/>

### 9 支笏湖ビジターセンター

建物内の展示施設は、「森へ、山へ、湖へ」もう一つの支笏湖の「旅へ」をテーマとし支笏湖周辺に生息する生き物の生態、水中を含む支笏湖の自然の見所などを地形模型・ジオラマ・映像などで魅力的に紹介しています。また、太陽光発電やヒートチューブによる地熱利用といった自然エネルギーを利用した施設になっています。

● 千歳市支笏湖温泉  
● 休館日/4月～11月無休  
● 12月～3月 毎週火曜日休館  
● TEL:0123-25-2404  
● FAX:0123-25-2472  
<http://www15.ocn.ne.jp/~sikutvc/>

### 11 洞爺財田自然体験ハウス

周辺の自然を紹介した展示の他、自然観察やクラフト、食べ物作りなどを通して、身近な自然に目を向けてもらえるようなプログラムの提供をしています。また、自然エネルギーの活用を図るため、ソーラーパネルやヒートポンプ、ペレットストーブなどを備えており、付属施設の水車小屋では、水車を利用した製粉作業なども行っています。

● 洞爺湖町財田3  
● 休館日/毎週月曜日  
● (但し、祝祭日の場合は翌日)、年末年始  
● TEL:0142-82-5999  
● FAX:0142-82-5999  
<http://www18.ocn.ne.jp>

### 13 羅臼ビジターセンター

館内に入るとまず目に留まるのがヒグマやトド、シマフクロウなどの剥製。オリジナルのハイビジョン映像は45分間隔で無料上映され、触って体験できる展示物も充実しています。徒歩3分の所では、約5mまで噴きあがる間欠泉も見ることができます。噴出時刻は予測できないことがありますので、館内のカウンターでおたずねください。

● 羅臼町湖の沢388  
● 休館日/月曜日  
● TEL:0153-87-2828  
● FAX:0153-87-2876  
<http://rausu-vc.jp/>

### 15 和琴自然教室

今も活動を続ける火山である和琴半島では、火山の影響を受けて暮らす不思議な生きものに会えることができます。また、豊かな森、色とりどりの草花が、訪れる人々を迎えてくれます。和琴自然教室では、このような動植物や散策のポイントを照会しています。散策の前に、是非、お立ち寄り下さい。

● 弟子屈町字屈斜路和琴  
● 休館日/月曜日  
● 期間/6月中旬～10月中旬  
● FAX:015-484-2835

### 17 塘路湖エコミュージアムセンター

釧路湿原を訪れた人たちに湿原の自然環境や利用についての情報を提供する拠点として平成9年10月に開設しました。「水」をキーワードとして、館内の解説パネルや映像、動植物のジオラマなどを皆さんに紹介しています。また、「自然ふれあい行事」を開催して、観察会などを行っています。

● 標茶町塘路原野  
● 休館日/毎週水曜日12月29日～1月3日  
● TEL:015-487-9003  
● FAX:015-487-3004  
[http://city.hokkai.or.jp/kr946/shisetsu\\_touroko.html](http://city.hokkai.or.jp/kr946/shisetsu_touroko.html)

### 19 シラルトロ自然情報館

シラルトロ湖のキャンプ場内にある無人の展示施設です。動植物の実物を樹脂で封入した立体標本で、釧路湿原やシラルトロ湖の生態系を紹介しています。

● 標茶町字コッタ口原野  
● 休館日/11月～4月  
● TEL:015-487-2121(くしろ湿原パーク 憩いの家かや沼)  
[http://city.hokkai.or.jp/kr946/shisetsu\\_kayanuma.html](http://city.hokkai.or.jp/kr946/shisetsu_kayanuma.html)

### 21 厚岸水鳥観察館

1993年にラムサール登録湿地に認定された厚岸湖・別寒辺牛湿原において、水鳥をはじめとする動植物の生活の場である湿地の保全や湿原の賢明な利用についての理解を深めてもらう活動を行ったり、調査研究やモニタリング等を行う拠点施設として建設されました。

● 厚岸町サンヌン66番地  
● 休館日/毎週月曜日  
● 湿原の休日に伴う休館日(祝祭日の場合は翌日)・年末年始(12月31日)・翌年の1月5日  
● TEL:0153-52-5988 ● FAX:0153-53-2121  
<http://www.marimo.or.jp/AWOC/>



## G8洞爺湖サミットの評価とCOP15への課題

北海道大学大学院 教授 吉田 文和



2008年7月に開催された北海道洞爺湖サミットは地球温暖化について、「2050年半減目標を世界で共有」という声明を出した。これは2007年のハイリゲンダム・サミットの「2050年半減を真剣に検討」からの後退であったのか？私は、洞爺湖サミットの声明は、①中国・インドの参加を条件づけるアメリカへの配慮、②中期目標は国別総量目標を目指すEU主張、③「セクター別アプローチ」は日本への配慮の、3つの要因の結果であったと判断する。むしろ問題は、現下の資源高騰と投機マネー問題に対して、資源・食糧問題へのメッセージ、投機マネーへの規制に関するメッセージが出せなかったことの方が大きいと考える。

これに対して、G8と新興5カ国を含む主要経済首脳会合宣言が出され、①「ビジョンの共有」、②削減の世界全体の長期目標は望ましい、③「IPCCの野心的な複数シナリオを真剣に検討」というかたちで間接的に50年半減を検討することが確認されたが、前日の新興5カ国宣言では、先進国に50年に80～95%削減要求、20年に25～40%削減を要求しており、G8と新興5カ国の対立が際だつ結果となった。

そこで、2009年末にコペンハーゲンで開催されるCOP15に向けての課題が問題となる。2013年以降のポスト京都議定書の枠組みが決められ、当然京都議定書と京都メカニズムの評価が不可欠となる。アメリカは京都議定書を批准しておらず、次期大統領政権下での課題となる。中国・インドなど新興国は削減義務を負っておらず、当然、米・中・印の参加のあり方が焦点となる。全体としての50年半減と中期目標への国別目標設定が課題で、省エネでの日中印協力も重要となる。

日本にとってのG8サミットを振り返ると、2050年半減のハイリゲンダム・サミットを受けて、京都議定書目標の未達成状況を打開するうえで重要な意義があったと考える。「福田ビジョン」が直前に発表され、そのビジョンと現実の政策のずれをどう埋めるか、基準年の問題(90年か05年か)を残しながら、温暖化問題に対する理念・枠組み・戦略の問題、政策統合の重要性が提起された。

温暖化問題に対する日本の現状を変えて、本格的に取り組むには以下のような理念と枠組みそして戦略が必要である。

- 気候安全保障基本法
- 50年までの長期削減目標と20年中期目標
- 環境税の導入
- 排出量取引制度
- 技術革新促進と低炭素社会普及制度
- 政策統合(気候安全保障政策・技術革新政策・競争力政策・雇用政策)

この理念・枠組み・戦略からみて重要なのは、北海道洞爺湖サミットを直前に控えて、福田首相が地球温暖化対策の「福田ビジョン」を発表したことである(2008年6月9日)。その柱は、以下の内容である。

- 50年までの長期目標として温室効果ガス排出量を現状比60～80%削減
- 国内排出量取引を今秋に試験的実施
- 環境税を含め、税制全般を横断的見直し
- 太陽光発電導入量を30年に現状比40倍に引き上げ
- 地球温暖化対策の多国籍基金に最大12億ドル拠出

これらの目標を達成するには、現状の政策とのギャップを早急に埋めて、実現のための政策体系を整える必要がある。

## レンジャーノート



### ●美しい水をたたえる支笏湖の魅力

支笏湖自然保護官事務所 自然保護官 柳谷 牧子

支笏湖自然保護官事務所に赴任して、半年が経とうとしています。この間、支笏湖ではジュニア8サミットが開催され、各国のこども達に美しい日本の自然を堪能していただくことができました。参加者の中には、日本にこんな素晴らしい自然があるなんて！と驚かれた方々もいらっしゃって、国際的にも価値あるこの素晴らしい環境を、今後もずっと残していきたいと気持ちを新たにいたしました。また、子ども達が国境を越えて真剣に環境問題をはじめとする国際問題を議論されたことに、私たちもとても励まされました。



▲子どもと踊るジュニア8サミット参加者(後列)

さて、支笏湖の素晴らしさは何ですか？とよく質問を受けます。私はまず一番に挙げるものとして、「水の素晴らしさ」とお答えさせていただきます。支笏湖の水は驚くほど澄んでいきます。水道水も大変おいしく、浄水器を付けなくては水を飲むことができない地域で育った私にとってはとても贅沢なことだな、と毎日おいしくお水をいただいています。ここ支笏湖では目と味で水の素晴らしさを堪能することができます。そしてもう一つ、支笏湖の集落の電気はなんと湖水を利用した水力発電でまかなわれているのです！



▲澄んだ水を満々とたたえる支笏湖

素晴らしい水の恩恵を受けることができているのは、下水場の整備など、地域のみなさんがきれいな支笏湖を守ろう、という気持ちに依るものです。閑静で美しい支笏湖を大切にしよう、という地域のみなさんの力になれるよう、私たちもがんばりたいと思います！

紅葉のシーズンとなってまいりました。澄んだ湖面に映る美しい支笏湖外輪山を眺めたり、ゆったりと温泉に浸かったり、紅葉の美しい山々を登ったり、と支笏湖でゆったりとした時間をお楽しみいただければと思います。

また、来年は支笏洞爺国立公園が誕生して60年の節目の年となります。地域のみなさんとお祝いをしたいと考えてます。計画が決まりましたら、あらためてご案内しますので是非参加して下さい。

### ●オンネトー湯の滝の外來生物

阿寒湖自然保護官事務所 自然保護官 玉谷 雄太



▲オンネトー湯の滝の様子

阿寒国立公園の南西部に、沸き出したお湯が2条の滝となって流れ落ちるオンネトー湯の滝という景勝地があります。湯の滝が落ち込む小さな池では、世界的にも貴重な地上でのマンガン生成現象が確認されているのですが、いつの頃からかこの池に外來生物が棲み着いてしまい、密かな問題となっています。

棲み着いた外來生物はナイルティラピアという熱帯魚で、養殖目的などで各地に移入されました。熱帯性の魚なので低温条件下では生存できないのですが、湯の滝の池には年間を通して温かいお湯が溜まっていることから、寒さの厳しい冬季にも死滅することなく繁殖し続けています。ナイルティラピアはその旺盛な食欲で、マンガン生成上重要な役割を果たす池内の藻類をことごとく食べてしまい、その貴重な生態系を改変しています。このため、地元足寄町では平成11年から網を用いた駆除等を行ってきました。

環境省では平成18年からこの活動に協力しています。1年目の防除活動では、漁網や釣り竿などの様々な漁具を用いた捕獲を試み、2年目には電動ポンプを用いて池の水を干し上げ、残った魚を人海戦術で捕獲しましたが、いずれも根絶には至りませんでした。3年目となる本年度は、ナイルティラピアの生態や生息環境の把握等の専門的な調査研究を行い、再び増殖してしまったナイルティラピアを確実に根絶させるための防除策を改めて検討することとしています。

上記の通り、一度移入した外來生物の根絶は一筋縄では行かないものですが、今後も関係機関や地元の方々などと連携し、オンネトー湯の滝の再生を目指して取り組んでいきたいと思っています。



▲ナイルティラピア

# 事業紹介

## 猛禽類保護の現場から

～収容個体からのメッセージを読む～

猛禽類医学研究所 副代表・獣医師 渡辺 有希子

猛禽類医学研究所(Institute for Raptor Biomedicine Japan(以下「IRBJ」という。))は、野生動物、特に希少猛禽類の保全医学をテーマに活動する獣医療機関です。活動拠点としている環境省釧路湿原野生生物保護センター(通称ワイルドライフセンター:WLC)には、主にシマフクロウ、オオワシ、オジロワシ、その他にクマタカ、ハヤブサ、オオタカなどの希少猛禽類が運びこまれます。IRBJは環境省より委託を請け、保護収容される傷病鳥を治療しています。そして治療期間中に低下した採餌・飛翔・危険回避などといった野生本来の能力を回復させるため、フライングケージにて野生復帰訓練を行っています。

またIRBJではWLCに運び込まれる死体の死因究明のための剖検と試料保存を行っています。残念ながら死亡してしまった個体であっても、原因を究明し、自然環境の中で起きている事象を把握すること、そしてさらに対策・予防策を現場へ反映させることが他の個体や次世代のために重要であるからです。

例えば感電事故では、死亡個体の火傷や通電箇所などを精査し、止まっていた飛び立つ時なのか、または止まろうと接近した時に発生したものなのか、その発生機序を明らかにします。電力会社も希少種の感電事故防止を重要視しており、共に現場検証を行い、感電対策について協議を行っています。現在、対策として①鳥を止まらせない器具を設置する②安全な止まり木を設置する、のいずれかを現場の状況に合わせて実施しています。WLCのフライングケージ内で収容個体を用いて防止器具の実験・開発し、その有効性を検証しながら改善を行っています。

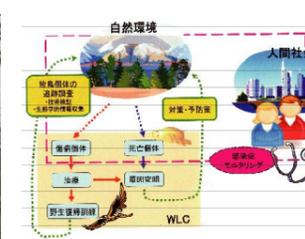
また、北海道において2004年から全ての大型獣の狩猟で鉛弾の使用が禁止されたにも関わらず、依然として猛禽類の鉛中毒症が発生しています。IRBJでは、血液検体からわずか3分で結果が得られる鉛濃度測定機を常備し、早期診断と治療に取り組んでいます。その結果、中毒と診断された個体でも、治療により回復し野生復帰させることができるようになりました。しかし中枢神経まで冒されてしまった個体を助けることはほぼ不可能で、鉛の毒性を痛感します。また森林性の動物を捕食するとされるクマタカの学術捕獲を行い、検査した結果、高率に鉛に汚染されていることが明らかになりました。違法に鉛弾が使用し続けられている現状を、科学的データをもって証明するため、今後も調査・研究に取り組み、全国における全ての狩猟の鉛弾禁止、そして鳥類の鉛中毒死の根絶を目指しています。

2008年5月、北海道にて高病原性鳥インフルエンザがオオハクチョウで確認されたことは記憶に新しい出来事です。

IRBJは収容個体において、鳥インフルエンザばかりではなく、近隣国ですでに発生が確認されているウエストナイル熱など、重要感染症の検査を実施しています。鳥類間の伝染病、そして鳥類が関与する人獣共通感染症のモニタリングを常日頃から行うことで、発生時の迅速な対応が可能だと考えています。また野外での捕獲調査や糞便サンプリングなどを行い、各研究機関と共同で感染症のモニタリングを実施しています。



▲感電対策-止まりを防止するための器具の実験



▲IRBJが取り組む保全医学の概要

IRBJでは、主として人為的原因により収容されることの多い希少猛禽類を治療し、再び野生に戻すだけにとどまらず、発信機や標識などで復帰後の追跡を行い、治療・野生復帰訓練の技術検証も行っています。放鳥個体からは種の保全のための基礎データとなる生態学的データを集めることができます。また、死亡個体を含め収容される鳥の傾向を把握し、その対策・予防策を考案することで、現場へのフィードバックが可能です。感染症のモニタリングは、野生鳥類の健全性を保つことはもちろん、人の健康への脅威を防ぐ、公衆衛生的分野にも取り組むことができます。収容個体、野外個体から得た試料を保存しておけば、将来、新たな問題が起きた際に過去に遡っての検索が可能となります。

IRBJが取り組む保全医学とは、野生鳥類のためだけでなく、人間社会のため、そして環境のため、全体を広く見据えた視野の学問です。人間の言葉を話すことが出来ない鳥達ですが、自然環境の中で何が起きているのか、メッセージを読み解くことが私達の役目だと思っています。

●問い合わせ先  
〒084-0922 釧路市北斗2-2101  
環境省釧路湿原野生生物保護センター  
猛禽類医学研究所 代表 齊藤慶輔  
TEL&FAX (0154)56-3465  
e-mail:irbj@irbj.jp



▲魚に薬を入れシマフクロウに与える



▲翼を骨折したオオタカの手術

## 自然公園関係功労者環境大臣表彰

平成20年8月30日、福島県の尾瀬の郷交流センターで開催された「平成20年度自然公園ふれあい全国大会」において、自然公園の保護とその適正な利用に関して、顕著な功績があった20個人・1団体に自然公園関係功労者環境大臣表彰が行われ、北海道からは、鈴木文雄元上川町長と阿寒国立公園川湯地域運営協会(福田英敏会長)の1個人・1団体が受賞されました。

鈴木氏は、大雪山国立公園におけるマイカー規制導入、登山道整備、避難小屋・ビジターセンターの運営管理など、また、川湯地域運営協会は、阿寒国立公園川湯地区において、エコツアーの先駆けとも言える自然とのふれあい機会の提供、自然保護の理解向上を目的とした散策会や清掃活動の実施など、それぞれの取組が高く評価されたものです。

受賞された鈴木元町長は、マイカー規制導入時は大変だっ

たが混雑の緩和や自然環境保全のため有効であったことや、避難小屋パイオトイレの維持管理に苦労したこと、また、福田会長からは、これまでの活動は地域の皆様の理解と協力があったことで実施できたとお話があり、お二方は、受賞を励みにこれからも活動を続けていきたいと決意を述べていました。



▲鈴木文雄元上川町長 ▲福田英敏川湯地域運営協会会長

## 10～12月のイベント情報

現時点では、日程が未確定なものと、日時・場所が変更される場合がありますので、それぞれの連絡先に直接お問い合わせください。

### 環境対策課から ☎011-251-8702

- 10月6日(月)「3R推進北海道大会2008札幌開催」  
○実施場所:エルプラザホール(札幌市)
- 10月15日(水)「3R推進北海道大会2008帯広開催」  
○実施場所:とかちプラザ(帯広市)
- 10月20日(月)「3R推進北海道大会2008旭川開催」  
○実施場所:旭川市民文化会館小ホール(旭川市)
- 【参加申し込み】NPO法人 環境り・ふれんず TEL:011-618-0530
- 10月7日～9日(火～木)「環境教育リーダー研修基礎講座」(北海道ブロック)  
○実施場所:北海道立洞爺少年自然の家(洞爺湖町)
- 10月14日(火)「第4回北海道地域エネルギー・温暖化対策推進会議開催」  
○実施場所:KKRホテル札幌(札幌市)

### EPO北海道から ☎011-707-7060

- 10月中旬「宗谷環境教育ステークホルダーミーティング」  
地域の資源を活用しつつ、宗谷地域広域で展開できる環境教育を探る  
○実施場所:(稚内市)
- 【お申込・お問い合わせ】
- 11月中旬「政策提言に関する意見交換会」  
環境ビジネスを進めている方を中心に政策提言を説明し、政策提言を促す。  
○実施場所:(帯広市)
- 【お申込・お問い合わせ】
- 11月15日(土)「持続可能な開発のための教育(ESD)連続セミナー」  
第4回「かつお節」を切り口にグローバルイノベーションを考える  
○実施場所:北海道国際交流センター大会議室(北海道函館市元町14-1)
- 【お申込・お問い合わせ】財団法人北海道国際交流センター(HIF)TEL:0138-22-0770

### 東川自然保護官事務所から ☎0166-82-2527

- 10月4日(土)野外観察会  
○実施場所:東川町旭岳温泉
- 支笏湖自然保護官事務所から ☎0123-25-2350
- 10月5日(日)自然歩道歩こう会(支笏湖畔から紋別岳のハイキングと自然観察)  
○実施場所:紋別岳
- 10月18日(土)体感!!パークレンジャー(水中船から支笏湖の中をのぞいてみよう)  
○実施場所:支笏湖周辺
- 11月30日(日)冬芽の観察会(支笏湖園地周辺の冬芽と野鳥の観察)  
○実施場所:支笏湖周辺

### 洞爺湖自然保護官事務所から ☎0142-73-2600

- 10月26日(日)洞爺湖の自然を守ろう  
～洞爺湖中島のアメリカオニアザミを除去しよう～  
○実施場所:洞爺湖中島
- 【連絡先】NPO法人 アース・ウィンド(tel/fax)011-381-9233
- 11月9日(日)四十三山自然観察会  
○実施場所:洞爺湖ビジターセンター・四十三山
- 釧路湿原自然保護官事務所から ☎0154-56-2345
- 10月5日(日)ボランティアレンジャーが案内するっておきの釧路湿原キラコタン歩こう  
○実施場所:キラコタン岬
- 11月29日(土)子どもパークレンジャー「野鳥の楽園 ラムサールの湿地を調べよう」  
○実施場所:厚岸水鳥観察館周辺

### 羅臼自然保護官事務所から ☎0153-87-2402

- 10月5日(日)紅葉彩る秋の知床国立公園を満喫!間欠泉と羅臼温泉の自然と歴史を探る自然観察会  
○実施場所:羅臼ビジターセンター、熊の湯及び間欠泉周辺

### 層雲峡ビジターセンターから ☎01658-9-4400

- 10月1日(水)～10月18日(土)大雪の生きものたち写真展
- 10月から11月毎週土曜日 スライド上映会大雪の四季
- 10月から11月毎週日曜日 四季の自然散策紅葉谷
- 12月2日(火)～12月28日(日)山の風景写真展
- 12月6日(土)～12月28日(日)ペーパークラフト

### 支笏湖ビジターセンターから ☎0123-25-2453

- 10月18日(土)七条大滝
- 10月19日(日)第一発電所ハイク
- 10月25日(土)美音の滝・巨木の森
- 11月15日(土)口無沼と丸山遠見

### 洞爺湖ビジターセンターから ☎0142-75-2555

- 10月19日(日)洞爺湖ビジターセンター流 紅葉狩り
- 12月7日(日)美味しい火山の話～お菓子をつくろう～

### 洞爺湖自然体験ハウスから ☎0142-82-5999

- 10月11日(土)かぼちゃでハロウィン(ランタン・プリン作り)
- 11月8日(土)秋の爽りの体験まつり!(収穫祭)
- 12月13日(土)クリスマス飾りを作ろう!(小枝でクラフト)
- 12月21日(日)クリスマス飾りを作ろう!(ジンジャークッキー作り)

### ウトナイ湖野生鳥獣保護センターから ☎0144-58-2231

- 10月26日(日)ウトナイ子ども探検クラブ～秋
- 11月16日(日)冬鳥を楽しむ会
- 12月14日(日)ウトナイ子ども探検クラブ～冬

### 宮島沼水鳥・湿地センターから ☎0126-66-5066

- 10月4日(土)16時～5日(日)7時 たっぷり雁観会(秋季)
- 10月19日(日)ガンカモティーチャーズガイドin宮島沼
- 11月 マガンも食べちゃう?! 美産産小麦をいっただごう!
- 12月 湿地センター年末交流会

### 温根内ビジターセンターから ☎0154-65-2323

- 10月19日(日)秋の湿原ハイク
- 11月9日(日)木の葉を使ったいろいろ工作
- 12月7日(日)リースを作ろう

### 塘路湖エコミュージアムセンターから ☎015-487-3003

- 10月18日(土)樹木ウォッチング～秋編～  
○実施場所:シラルトロ湖・蝶の森
- 10月19日(日)バードカービング講座(1回目)
- 11月8日(土)バードハウスを作ろう
- 11月16日(日)バードカービング講座(2回目)
- 12月6日(土)リースを作ろう
- 12月14日(日)バードカービング講座(3回目)
- 実施場所:あるこつとレクチャールーム

### 川湯エコミュージアムセンターから ☎015-483-4100

- 10月19日(日)紅葉のキンムトーと第二硫黄山
- 11月16日(日)硫黄山の歴史に学ぶ(講座)
- 12月21日(日)アカエゾマツの森 クリスマス会

### 阿寒湖畔エコミュージアムセンターから ☎0154-67-4100

- 10月12日(日)ペンケトー、パンケトー自然探検会
- 12月7日(日)ポッケの森をネットで護ろう

# 北のいきもの事典

## ヤマメ・サクラマス

(サケ目サケ科サケ亜科サケ属)

洞爺湖の北側に位置し、湖に流れ込む7本のうち最大の河川であるソウベツ川。毎年9月中旬になると、この川を遡上する無数の大型魚影を確認できる。サクラマスだ。大きいものでは1m近くにもなる。ここ洞爺湖のサクラマスは体が大きく、「洞爺マス」の名で、釣り人のあいだでは「ブランド化」している(河川でのサクラマスの釣り、捕獲は禁止されています)。婚姻色のピンク色に体を染めた何十、何百ものサクラマスが水面から背びれをのぞかせ、一心不乱に川を遡上する姿は非常に迫力があり、また子孫を繁栄させようという強い「執念」を感じる。実はこのサクラマス、ほとんど面影はないが、ヤマメが成長した姿だ。「サクラマスの幼魚がヤマメ」という言い方のほうがわかりやすいかも知れない。ソウベツ川では毎年この時期になると、車道からほど近い場所でも比較的容易に遡上を見ることができ、洞爺湖からソウベツ川のように海ではなく、湖で成長した



▲子供(写真提供:田中正文氏)



▲遡上(写真提供:田中正文氏)



▲親子(写真提供:今井昌氏)

サクラマスが河川を遡上するというケースは非常に稀である。

ヤマメ(山女魚、山女)。北海道や東北では「ヤマベ」とも言う。北太平洋のアジア側に

のみ生息するサケ科の1種。北海道の日本海側が分布の中心で、本州のアマゴとは近縁種。(本州では両種の無秩序な放流により、生息域の攪乱や交雑種が問題となっている)うっすらと金色に輝く体側に、深緑色のパーマーク(斑点)が特徴的な非常に美しい魚だ。一生を川で過ごす『陸封型』(河川残留型)をヤマメ、海や湖に出て大型化する『降海型』をサクラマスと分ける。

このように同種であるにも関わらず、生息環境に合わせた成長の変化等により、外見の違いだけでなく、その呼び名さえも変わってしまうという魚種は少なくない。「イワナ」の降海型が「アメマス」、湖沼などを生息域とする淡水残留型「ヒメマス」の降海型が「ベニザケ」など…。堰堤や滝、その他物理的要因で生息域が区別される場合や、水温の変化等、生態的要因による生息域の棲み分けといった理由で、陸封型と降海型に分かれる場合もあるようだが、はっきりした原因はわからないらしい。同じ川に生まれ、移動を遮るような堰堤や滝もないという環境の中で、あるヤマメは川に残り、あるヤマメは海や湖へ…。自然界は実におもしろい。

※引用…日本の淡水魚(山と渓谷社)

洞爺湖自然保護官事務所 自然保護官補佐 加藤 康大

## 人事異動

( )は旧職名

10月1日付

### ▼北海道地方環境事務所へ転入

○国立公園・保全整備課長

藤森 貞明(大臣官房政策評価広報課 地方環境室 室長補佐)

### ▼北海道地方環境事務所から転出

○関東地方環境事務所 野生生物課 広域鳥獣保護管理専門官

木内 尚也(野生生物課 自然保護官)

### 表紙写真



●撮影場所/川湯エコミュージアムセンター前

●撮影者/荻原寛暢 ●撮影日 平成19年10月23日

●解説/青空によく映えるハウチワカエデの紅色とシラカンバの黄色。ここでカメラを構える来館者の人数で、センター周辺の紅葉のピークを客観的に知ることができます。今年も多くの人に綺麗な様子を見せてくれるのでしょうか。

### 編集後記

▼北海道洞爺湖サミット開催が決定されて以来、国、民間を問わず様々な取組が展開されました。北海道地方環境事務所における取組については、本誌第8号から「洞爺湖サミット通信」としてシリーズで、本年6月にはサミット直前号としてエコ・ギャラリーの開館を、前号(第11号)は、サミット特集号としてサミット前後の様々な取組をご紹介してきました。

▼今号では、北海道洞爺湖サミット関係記事の締めくくりとして、8月末に閉館したエコ・ギャラリーでの取組を写真で振り返りご紹介しました。また、北海道内の国立公園、国指定鳥獣保護区などにあるビジターセンターや野生鳥獣保護センターなど環境省関係施設の見どころを掲載しましたので、四季折々お立ち寄りいただければ幸いです。

発行：環境省

北海道地方環境事務所

〒060-0001 札幌市中央区北1条西10丁目1番地 ユーネットビル9階

TEL (011) 251-8700・FAX (011) 219-7072

http://hokkaido.env.go.jp/

釧路自然環境事務所

〒085-8639 釧路市幸町10丁目3番地 釧路地方合同庁舎4階

TEL (0154) 32-7500・FAX (0154) 32-7575

http://hokkaido.env.go.jp/kushiro/